

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立第二延山小学校

【国語】

(1) 定着状況の概要

○4～6年生はすべての領域で平均を上回っている。すべての学年で「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で高い定着状況が見られる。

▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で、特に低学年が平均を下回っている。

(2) 具体的な課題

2年生	「かん字をよむ」「かん字をかく」
3年生	「話を聞きとる（話し手の話に関心をもち、質問している）」「言葉の学習（身近なことを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている）」「文章を書く」
4年生	「書くこと」について、全国や区内平均を上回っているものの、前年度校内平均より14ポイント下回っている。
5年生	「調べたことをもとに文章を書く」「漢字を書く」
6年生	「言葉の学習」では、全国正答率は上回っているものの、正答率が60%程度の問題もある。「書くこと」について、指定の文字数に達していない回答、記述をあきらめていることが見られる。

(3) 課題の原因として考えられること

- ・漢字そのものの持つ音の定着が不十分である。
- ・身近な事柄を表す語句の量が少ない。
- ・問題文を正しく読み取ることができていない。問いに対して正対していない。
- ・繰り返し復習したり、日常生活で書く頻度が減ったりしたこと。
- ・敬語を使う習慣が身に付いていないこと。
- ・学習意欲に差があること。テストに慣れていない技術的な問題。「書くこと」に関して抵抗のある児童が多いこと。

(4) 課題解決のための方策

- ・単独で読むときと熟語で読むときとで読み方が異なる字については、文の中でその都度確認する。
- ・題意にあった短作文を継続的に書かせ、内容や文字の指導を行う。
- ・初めて読む文章でも内容を理解できるように、教科書以外の文章を読む機会を増やす。
- ・書く単元の際には、段落を意識させ、1段落1内容で書くようにし、明確さとともに細分化させることで書きやすさを実感させる。
- ・タイピングだけに偏らないように手書きで文章を書く機会も設定する。
- ・日頃から目上の人に対しては敬語を使うよう徹底していく。

【社会】

（１） 定着状況の概要

○３学年ともほぼすべての項目で全国平均を上回っている。

▲４年生は、「生産や販売」「市の様子の移り変わり」で区平均を下回っている。

（２） 具体的な課題

４年生	「生産や販売」「市の様子の移り変わり」
５年生	「都道府県の様子」「くらしをささえる水」「先人の働き」の正答率がやや低い
６年生	工業生産に関して、特に日本の貿易の内容について

（３） 課題の原因として考えられること

- ・資料の中の必要な情報に着目することができない。
- ・資料と問題を関係付けて考えることが難しい。
- ・二つ以上の資料同士を比較することが難しい。
- ・資料の結果からどんなことが分かるか、なぜなのか自分なりに根拠立てて考えることが難しい。
- ・資料を適切に読み取ることができない。
- ・輸出入や日本の貿易の特徴など、日常生活からは感じづらい分野は、単なる事象・事実としての認識に留まってしまった。

（４） 課題解決のための方策

- ・通年の取り組みとして、資料から分かることを自分の言葉でまとめ、友達と意見を共有する活動を通して、資料の読み取りに苦手意識がある子も、理解できるようなサイクルを作る。
- ・自分の考えを書くときは、なぜそう思ったのか根拠をもって書くようにする。
- ・単元の最後には復習プリントを用いたり、学期末にも復習の時間を設けたりするなどして学習の定着を図る。
- ・授業で資料の読み取り方を丁寧に確認する。
- ・授業内で扱う内容について、ただ事実を伝え理解させるだけでなく、自分たちの生活にどのような影響があるのか、輸入の増減によるメリット・デメリットなどを話し合ったり、調べたりする。

【算数】

(1) 定着状況の概要

○4～6年生は、ほぼすべての領域で全国平均を上回っている。

▲2・3年生は、全国平均正答率より下回っている領域「数の意味の理解」「長さ・かさ」がある。

(2) 具体的な課題

2年生	・「集合数の理解」(前から4個に○をつける)
3年生	・「たし算・ひき算(加法の結合法則を用いた式の計算の順序を理解している)」 ・「長さ・かさ(長さの単位の関係を理解し、大小を判断することができる)」
4年生	・「図形」では、全国平均を5.8ポイント、区平均を2.3ポイント上回っており、他の項目と比べると平均を大きく上回っているが、各領域の平均正答率との比較では、「図形」が一番低い。
5年生	・身近にあるもののおよその面積を推測すること。 ・平行四辺形の作図
6年生	・「分数の計算」と「割合」の問題

(3) 課題の原因として考えられること

- ・計算の順番を正しく理解していない。
- ・図を読み取ることができない。
- ・三角形の作図の仕方や直径の意味を理解できていない。
- ・四則演算の定着が満足にできていない児童が多い。かけ算の九九が定着していない。
- ・1mm、1cm、1m、1kmの長さの感覚が定着していない。
- ・平行四辺形や円等の図形の性質、コンパスの正しい使い方が定着していない。

(4) 課題解決のための方策

- ・日常の整列の時などを生かして、生活の中で意図的に用い、さらに定着を図る。
- ・結合法則を使った式の計算の順序を確認し、練習問題を解く。
- ・dLのたし算が苦手であるため、視覚的に理解させる。
- ・授業を中心に学校生活の中で、長さを丁寧に確認する時間を設ける。
- ・授業で図形の性質について丁寧に指導し、児童一人一人の作図ができているか確認する。また、定着が不足している児童には個別で指導を行い、定着を図る。
- ・普段の授業の中で、基礎知識を活用できる問題を用意したり、ペアやグループで説明する時間を設けたりする。
- ・問題場面を数直線などの図に表し、丁寧に整理することを指導する。そして、その図を活用して正しく立式できるようにさせる。

【理科】

（１） 定着状況の概要

○３学年とも、ほぼすべての領域で全国の平均正答率を上回っている。

▲５年生は、「１年間の植物の成長」「雨水のゆくえと地面の様子」で全国平均を下回っている。

（２） 具体的な課題

４年生	「光の性質」が 47.4 ポイント、「磁石の資質」が 56.4 ポイントである。他の項目の正答率が 6 ～ 7 割を超えているのに対して、この 2 項目の低さが目立つ。
５年生	「１年間の植物の成長」「雨水のゆくえと地面の様子」
６年生	「ふりこのきまり」の正答率が 5 割を下回っている。

（３） 課題の原因として考えられること

- ・実験において、どの条件をそろえているか・比べているかを整理する力が不十分。
- ・実験の結果を比べ、分析することに苦手意識をもつ児童が一定数いる。
- ・植物の成長の変化について正しく観察ができておらず誤って理解している。
- ・実験の結果からふりこの長さによって、1 往復する時間が変化することは分かるが、結果だけが定着をして、なぜその結果になるのか、その理由を示すことを苦手とする児童が多い。正当できた児童も、他の実験結果と比べて理由を解答できる児童が少なかった。

（４） 課題解決のための方策

- ・実験のそろえる条件・変える条件を理解できるよう、表に書きまとめたり自分の言葉で結果を説明する活動を増やしたりする。
- ・結果から考えられることを話し合って考察の時間を長く取ったり意見を深めたりする活動を増やす。
- ・１年間の植物の成長などを復習する。
- ・授業の終わりや単元の終わりに授業の補充をし、実験結果から考察する活動を増やす。また、考察をする際は、他の実験結果と比べることも補足し、イメージがもちにくい部分は映像資料によって適宜理解を深める機会を作る。

【英語】

(1) 定着状況の概要

- ・全ての領域で全国平均・区平均を上回っている。
- ・「基礎」は全国平均を 8.9 ポイント、区平均を 3.8 ポイント上回っている。
- ・「活用」は全国平均を 6.2 ポイント、区平均を 1.9 ポイント上回っている。
- ・「聞くこと」は全国平均を 6.7 ポイント、区平均を 2 ポイント上回っている。
- ・「読むこと」は全国平均を 10.7 ポイント、区平均よりも 5.7 ポイント上回っている。
- ・「書くこと」は全国平均を 9.2 ポイント、区平均よりも 4 ポイント上回っている。

(2) 具体的な課題

6 年生	・ 日常会話の理解、英作文について苦手意識を感じている児童が多い。 ・ 短い物語を聞き、話の概要を捉えるような会話全体の内容を聞いて理解する問題では、校内正答率が 58.6 ポイントと低い。
------	---

(3) 課題の原因として考えられること

- ・ 音では理解しているが、読み書きとなると難しさを感じている児童が多い。
- ・ 日常会話の中で使われる英語の意味の理解や、自分で内容を考えて作文することに難しさを感じている児童が多い。

(4) 課題解決のための方策

- ・ JTE と連携し、日頃の授業に読む学習を取り入れる。
- ・ 単語の穴埋め問題を取り入れ、作文に慣れるようにする。
- ・ 授業のウォーミングアップで挨拶、日時、天気や習った表現方法を用いた会話を取り入れる。